

【地域の概要】

- 町域の95%以上が市街化区域農地で、宅地や工業用地の中に点在していることから効率的な農作業が行われにくくなっている
- 農地面積は約120haあるが、近年、宅地化が進み、農地面積が減少するとともに、農業者の高齢化と後継者不足が同時に進行しているため、耕作を行う農家戸数も減少している
- 農地の約2割程度は、休耕状態やまったく管理できていない状態であり、有効な農地の利用方法の検討が必要

①取組開始前の状況や課題

開発等により年々、農地減少

- 転用などで毎年4haの農地が減少

岐南町都市農業振興基本計画策定
(令和3年3月)

- 市街化区域の農地が開発を促すものから、都市にあるべきものに
- 都市農業の多様な機能の発揮するため、7年度までの5年間の方針を決定

方針に沿った農地の有効活用を模索

- 町の都市農業にあった活用方法を実行するため農業振興協議会を開催
- 実践者2名をメンバーに入れ、意見を聞きながら、町内の農地所有者への提案する都市農業を検討した

②取組内容

岐南町農業振興協議会
第一回（令和3年11月）
第二回（令和4年2月21日）

- 町内の農業実践者、認定農業者（法人）岐阜大、JA、町、農業会議が集まり協議
- 農業の実践者から、町の農業振興として推進してはどうかと、次の2つの取組の提案を受けた

①市民農園の普及

農地を区分けし、利用者を募り特定貸付する農園。町内に12カ所あり、ほとんどが利用で埋まっている。

②新規作目による耕作放棄地解消

認定農業者（法人）が販路を持っている比較的管理が容易なマコモダケ（水田）やジャガイモ（畑）の生産。モニターとして2名が新規で生産を始める。

- 2つの取組は基本計画に合致し、協議会としてアンケートなど推進を決定

③今後の展開と方向性

①市民農園希望者の把握

- 関心のある所有者を把握するためのアンケート作成

②新規作目の周知・見学会の実施

- マコモダケやジャガイモの周知のため、法人圃場での見学会やモニター募集を検討

- ①のアンケートとともに興味ある所有者の把握

営農計画書の配布にあわせたアンケート実施

- 水田所有者へ営農計画書に併せてアンケートを配布

- 関心のある農地所有者に①②の方法を提案していきながら、都市農業振興に繋げていき、遊休農地の発生防止・解消を目指す。